

総合日本語コース報告（2014年10月～2015年9月）

濱田 美和

1 はじめに

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために、2004年10月に開設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で、日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低いいため、本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級クラスとの合同授業として開講している。2005年9月に初めて本コースの修了生を送り出し、2014年10月に11期目の学生を迎えた。

以下、2014年度秋期（2014年10月～2015年3月）及び春期（2015年4月～9月）の総合日本語コースの実施状況について報告する。

2 受講学生

2.1 日本語・日本文化研修留学生

「2014年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は6人で、その学生は秋期、春期ともに総合日本語コースを受講した。学生の出身・地域はイタリア、インドネシア、韓国、スリランカ、フランス、ロシア各1人で、所属は全員人文学部である。

総合日本語コースの授業科目として、2014年度は秋期と春期、各期9科目を提供した。総合日本語コースの授業科目は必修科目ではないが、本学の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了要件の一つとして、学部や教養教育の授業科目及び総合日本語コースの授業科目の中から各期8科目以上の履修が義務づけられている。2014年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本語コースの受講状況は、12科目（秋期7、春期5）が1人、10科目（秋期5、春期5）が1人、9科目（秋期5、春期4／秋期4、春期5）が2人、6科目（秋期4、春期2）が1人、5科目（秋期3、春期2）が1人だった。

2.2 協定校からの短期留学生

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために開設した日本語プログラムであるが、2006年10月より、本学との学術交流協定に基づく短期留学生も総合日本語コースに参加可能となり、上級レベルの日本語力を有する短期留学生は総合日本語コースを受講している。短期留学生については、留学期間が1年の学生と半年の学生がいるため、期ごとに受講状況を述べる。

受講者数については、秋期は18人で、出身国・地域別の内訳は中国が11人、韓国が3人、台湾とロシアが各2人、所属別の内訳は人文学部が7人、人間発達科学部が5人、経済学部が3人、経済学研究科が2人、人文科学研究科が1人だった。春期は11人で、出身国・地域別の内訳は中国が8人、台湾が2人、韓国が1人、所属別の内訳は人文学部と経済学部が各4人、人間発達科学部が2人、経済学研究科が1人だった。

履修科目数については、秋期は4科目が8人、3科目が5人、2科目が3人、6科目が2人、春期は3科目が5人、2科目が2人、6科目と5科目と4科目と1科目が各1人だった。

3 担当者

秋期、春期ともにセンター専任教員1人（濱田美和）、及び、謝金講師6人（高畠智美、中河和子、永山香織、藤田佐和子、松岡裕見子、要門美規）が授業を担当した。いずれの期もセンター専任教員の濱田がコースのコーディネートをを行った。

4 スケジュール

秋期は、2014年10月8日（水）～2015年2月10日（火）を授業期間とした。12月23日（火）～1月5日（月）は冬季休業、1月16日（金）は大学入試センター試験準備日のため、休講とした。また、曜日調整のため、11月5日（水）と11月27日（木）と1月13日（火）は月曜日の授業を行った。

春期は、2015年4月10日（金）～7月30日（木）を授業期間とした。曜日調整のため、5月2日（金）は水曜日の授業、5月7日（木）は月曜日の授業を行った。

学期ごとにコーディネーターの濱田がオリエンテーションを行った。実施日は、秋期は2014年10月7日（火）、春期は2015年4月8日（水）である。オリエンテーションでは、学生に各授業科目の目的、理解達成目標、授業計画等を掲載した授業概要の冊子（授業概要は国際交流センターホームページ上にも掲載、Web版は日本語と英語での閲覧が可能）を渡し、コースの内容、各授業科目の詳細について説明を行った。春期のオリエンテーションでは、履修の際の参考となるよう、秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は、授業開始後1週間以内に行い、履修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

5 授業内容

総合日本語コースは、上級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが、日本語課外補講は成績評価が必要でないため、授業科目によっては必要に応じ、総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。科目別の授業概要は表1の通りである。いずれの科目も秋期と春期で同一の授業概要（目的）となっているが、秋期に履修した科目を春期に続けて履修できるように、授業で取り上げるトピックやタスクの内容は期ごとに変えている。

表1 総合日本語コース授業概要（2014年10月～2015年9月）

授業科目名 (開講曜限)	担当	授業概要
秋期：読解 A2 (火曜 4 限) 春期：読解 A1 (火曜 2 限)	藤田	文章全体の意味を捉えたり、文章の細かい部分を読み取る練習をすることにより、大学での学習や研究に必要な日本語の基本的な読解能力と日本語能力試験に合格するために役立つ力を身につける。
秋期：読解 B2 春期：読解 B1 (木曜 3 限)	永山	留学生に必要とされる専門書、論文の読解能力の育成を目指し、教養書、新聞記事等日本での学生生活で出会う様々なテキストタイプの読み物（日本人向けに書かれたもの）を扱う。それぞれのタイプの読み物の特徴となる基本的な構造、文体等を把握し、それに慣れる手立てを見つめる。
秋期：文法 2 (木曜 2 限) 春期：文法 1 (火曜 1 限)	濱田	大学での学習、研究生活に必要な上級レベルの文法・表現（時を表す表現、接続表現、文末表現など）を、実践的な演習を通して習得する。日本語能力試験受験対策もあわせて行う。
秋期：作文 2 春期：作文 1 (金曜 2 限)	松岡	論理的な文章を書くために必要な構成、表現、文法の基本を学び、学習した項目を用いてまとめた文章を書くことで、レポートや論文を書くための基礎力をつける。文章を書く練習にはコンピュータを使用する。
秋期：聴解 2 春期：聴解 1 (水曜 3 限)	要門	大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いた練習を行う。
秋期：会話 2 春期：会話 1 (火曜 3 限)	松岡	ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話力を伸ばす。また、人や物、経験など様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する力、意見や感想を述べる力を養う。

秋期：漢字 2 春期：漢字 1 (月曜 3 限)	高 島	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。学生一人一人のレベルに応じたテキスト(『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字1000PLUS』Vol.2(凡人社)等)を用い、大学での学習、研究生活に必要な漢字を習得する。
秋期：表現技術 2 春期：表現技術 1 (月曜 2 限)	濱 田	目上の人や初対面の人とやりとりする、あるいは、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現、日常的・実用的な文章の書き方、日本語での口頭発表のスキルを習得する。
秋期：日本文化 2 (木曜 4 限) 春期：日本文化 1 (水曜 4 限)	中 河	留学生として日本社会を分析する試み(情報の読みとり、整理など)をTV番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。

*1 限 8:45～10:15, 2 限 10:30～12:00, 3 限 13:00～14:30, 4 限 14:45～16:15

なお、学生による授業評価アンケートは、日本語課外補講上級クラスとまとめて実施した。授業評価アンケートの結果については、日本語課外補講報告の 7 授業評価を参照いただきたい。

6 成績評価

成績評価の方法については、成績評価の基準を授業概要に明記するとともに、オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が、優(80点～100点)、良(70点～79点)、可(60点～69点)、不可(59点以下)で判定を行うが、総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。9 月(留学期間が半年の学生については 3 月)に成績を記した履修証明書の発行を国際交流センター長名で行っている。

7 学生からの評価

前述の通り、各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し、これ以外に、総合日本語コース全体についてはインタビュー調査(実施日:2015年2月10日(火)、3月20日(金)、7月27日(月)、28日(火)、29日(水)、30日(木)、調査対象:2014年度日本語・日本文化研修留学生(6人)、協定校からの短期留学生(11人))を行った。この結果を表2に示す。

表2 総合日本語コースインタビュー調査結果

1. 総合日本語コース： 科目について	<ul style="list-style-type: none"> ・十分だった。(11人) ・ちょうど良かった。 ・ちょうど良かったが、自分が取った科目数はちょっと少なかった。他の授業、「読解」、「作文」も取ったほうがよかった。 ・大体ちょうどよかったが、もう1つ、「読解」の授業を取ったほうがよかった。 ・足りていた。秋期はちょっと授業を取りすぎた。全部で9科目以内がいいと思う。 ・十分だった。総合日本語コースの科目に単位があったらいいと思う。 ・来たばかりの時はN2レベルの科目がなかったので、ちょっと困った。総合日本語コースの科目に単位があったらいいと思う。
2. 総合日本語コース： レベルについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょうど良かった。(7人) ・普通の学生にとってはちょうど良いと思うけど、日本語が専門ではない私にとっては少し難しかった。聞くことと読むことはそんなに難しくないけど、話すことが難しかった。 ・ちょっと難しいです。国の授業で手紙の書き方とか全然勉強しなかったので、「表現技術」の授業を受けてよかった。「作文」も国で日本語で書くのはチャンスが少なかったの、初めは難しかったけど、慣れたら大丈夫だった。「聴解」は最初から大丈夫だった。 ・レベルがいろいろだった。秋期「表現技術」はちょっと難しかった。春期「聴解」はいろいろなものが聞けておもしろかったが、日本語能力試験の準備をしたかったので、ちょっと易しすぎた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・N2 レベルなので、秋期「表現技術」と春期「読解 A」が難しかった。他は大丈夫だった。 ・科目によって違う。私にとって内容的に難しいのは「漢字」で、調べても意味のわからないことがあった。他は大丈夫だった。「聴解」は簡単すぎて、日本語能力試験の役には立たないと思った。 ・「文法」「漢字」「読解 A」はレベルがちょっと高い。 ・ちょうど良かったと思う。私はもうちょっとがんばらなければならなかったと思う。 ・「文法」の授業は N1 のためにちょうどいい。「聴解」は、たまに教材がちょっと難しかった。ビデオを見たとき、ある単語が難しく、話すスピードがたまにちょっと速すぎる。 ・秋期の「文法」は簡単だった。春期の「聴解」はちょうどよかった。春期の「日本文化」はおもしろかった。秋期も取ればよかった。 ・秋期は日本に来たばかりだったから、「作文」の授業での論文の書き方などは難しかった。春期は大丈夫だった。
3. 科目選択の際に重視したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを見て、授業内容の確認をして、受講した。日本人のチューターからもアドバイスをもらった。どんな授業が自分にとって勉強になるかを相談して決めた。 ・まず興味がある授業、それから就職で役に立つ授業を選んだ。 ・今の自分の最も足りない部分、そして、将来の仕事のために授業を選んだ。 ・秋期は授業やレポートの役に立つような授業を選び、春期は日本語能力試験に向けて授業を選んだ。 ・シラバスを見て、専門の時間割を考えて、自分の力を上達させるように決めた。 ・最初は自分が弱い点を選んで、後は日本語能力試験を受けるので、N1 関係のものを取った。 ・N1 に合格するために、正しい日本語が使えるようになるよう、科目を選んだ。 ・自分の不足点、自分のレベルを上達させられるように選んだ。 ・一つ目は授業のおもしろさについて優先的に考えて、二つ目は自分に足りない点を補えるかどうかを考えて選んだ。 ・自分にとって役に立ちそうなものを選んだ。 ・N1 のために「文法」と「読解 A」を選んだ。それから、苦手なところを選んだ。 ・まずは専門の授業と重ならないかを見て、そのあとシラバスを見ておもしろそうなものを選んだ。 ・母国の大学の科目に基づいて単位互換しやすい科目を選んだ。総合日本語コースの科目は、単位互換 OK だが、専門の科目が厳しい。 ・自分が不足しているもの、興味があるものを選んだ。会話力が不足しているので「会話」を選んだ。「読解 B」はいろいろな文章を読めて、日本文化も知ることができ、読んだ後ほかの学生と話すことができるので選んだ。
4. 自身の日本語力について	<ul style="list-style-type: none"> ・伸びたと思う。耳も慣れてきたし、読むことの速さも増えてきたことに気付いたし、もう少し話せるようになった。国で話す練習をあまりしなかったが、ここでは話すチャンスがあった。 ・伸びた。特別に伸びたのは漢字。それから、読むスピードが速くなった。 ・話すのが良くなった。日本語を勉強したのは 2 年前で、日本に来る前の 2 年間は日本語を使わなかったので、来たばかりのときは話せなかったが、みんなが日本語を話しているので、だんだん良くなかった。授業は、全部はわからないけれど、辞書で調べたりしたら、大体わかった。外国語の勉強はこのような方法がいいと思う。 ・上手になったと思う。日本語を書く能力も話す能力も高くなったと思う。聴解のスピードも、国でも聴解の CDなどを聞いたけど、実際の日本人の話すスピードは人によって違うと思った。方言が一番勉強になった。国での聞くのは標準語の日本語だけだったので、これは日本に来ないと勉強できないことかな。 ・日本語の力は伸びたけど、理想よりも低い。授業では、レポートを書いたりすることが多かったから書く力は伸びたが、会話の力や新しい言葉はあまり増えなかった。日本人学生と話す中で、「新歓」や「チャリ」などの言葉を覚えた。今後は、日本人とのコミュニケーションが一番重要だから、会話の力をもっと伸ばしたい。 ・全部日本語の環境にいるから、日本語の力が伸びた。会話が特に伸びた。今後も会話の力をレベルアップしたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・読み、書きの練習は国でもできるけれど、聞くことと話すことが特に伸びた。「…でさ」という言い方をする日本人学生が多いことを知ったのもこちらに来て学んだことだ。今後は、友だち同士での会話はできるようになったので、ちゃんとした尊敬語や謙譲語を自由に使って話したり、手紙を書いたりできるようになりたい。 ・レベルアップしたと思う。語彙が増えたとし、読むときに自信を手に入れた。最初は漢字がいっぱいで怖かった。今後は発音と漢字の力を伸ばしたい。 ・結構伸びたと思う。国の日本人の友達から話すのがうまくなったと言われた。漢字は前より絶対に良くなかったと思う。今後伸ばしたい力は漢字で、漢字の力は80%は自習によるものだと思う。他には就職や仕事で使うことばや表現を勉強したい。 ・話す力と聞き取る力がだいぶ良くなったと思う。今後はこれまで勉強したことを実際に使えるようになるまで練習する時間が必要だ。国に帰ったら、日本人が周りにあまりいないのが残念だ。 ・レベルアップしたと思う。特に、話し方、会話は上手になったと思う。文法や漢字の書き方もレベルアップした。今後は文法と作文の力をもっと伸ばしたい。 ・前よりちょっとだけ上がっている気がする。特に聴解や、日本人と話す時に以前は意識しないで日本語を話していたが、文法とかにもっと注意をして自然な日本語が話せるようになった。今後は、日系企業で働きたいので、ビジネス用語や敬語を使えるようになりたい。 ・前よりレベルアップしたと思う。聞く力も話す力もちょっとアップした。今後は、日本の文化、たとえば祭りなどをもっと知りたい。 ・伸びたと思う。特に話す力と聴解の力が伸びた。今後伸ばしたい力は、今は簡単なやりとりはできるので、もっと深く複雑に話題についてやりとりできるようになりたい。 ・伸びたと思う。特に方言の聞き取りが伸びた。読むスピードも速くなった。今後は、論文やレポートを書く力を伸ばしたい。 ・伸びたと思う。たとえば、テレビ番組を見たとき、前は字幕を見てもわからなかったが、今は見なくても180%分かるようになった。今後は、授業で先生と会話できるようになりたい。自分の意見や気持ちを伝える能力を伸ばしたい。 ・少し伸びた。特にヒヤリングが伸びた。最初は富山の人は話すスピードが速いのがびっくりしたけど、今は大体聞き取れる。
5. 富山での留学生活について	<ul style="list-style-type: none"> ・富山大学の学生生活はとても楽しかった。授業以外の活動、センターでの集まりとかパーティーは国でやっていなかったもので、楽しかった。富山は交通はちょっと不便だった。寮はとても便利だった。部屋も広いし、生活に必要なものはあって、生活しやすかった。 ・とても楽しかった。日本人の学生も留学生も先生もみんなやさしい。いつも手伝ってくれた。寮があまり近くないため、雪のとき大変だった。 ・すごくいいと思う。まずは、いろんな外国人と一緒に時間を過ごすと、自分の国と違うことがいろいろあることがわかる。日本人の生活と文化は、国とは全然違う。学校の食堂のバイトを通して、日本には年功序列、集団意識があることがよくわかった。バイトで、みんなと一緒に過ごしてとても楽しかった。日本の生活にとっても近づくことができた。経験して良かった。大都市は便利だけど、いろんな誘惑があるので、勉強するには富山のようなところがいいと思う。富山の人は親切。日本に来たばかりのころ、チューターが忙しくて、1人だった。初めて学校へ行くとき、道で会った知らないおばあさんがとても親切にいろいろなことを教えてくれた。1人だったことで、いろいろな経験ができて、良かったと思う。 ・半年間ですごく成長したと思う。辛いことも本当にたくさんあったけど、成長した。指導教員にすごく感謝している。成長できる前は、つらい体験が必ずあると思う。富山での生活は80%好きなところと、20%いやなところがあった。まず良かったところは、田舎で静かなところ。日本に来て驚いたのは、学生が使えるパソコンやプリンタがあるなど、母国の大学より学生へのサービスが充実しているところ。富山大学の学生については、深く考えていると思う。とても細かいところに注意している。自分は甘すぎと思った。何度もミスをして先生に怒られた。自分の専門を考えると、これから細かいところに注意すべきだと思う。富山の学生は性格が良く、親しめる感じがある。合宿で会った都会の大学の学生はちょっと距離感がある気がした。私が富山で一番いやなのは、寒い地方の出身なので、雪には慣れている。でも、故郷の雪は降ったら氷になるけど、富山の雪は降った後すぐ水になるので、いやだった。持って来た靴は防水でなかったもので、新しい靴を買った。富山は雷の音も大きい。買い物も不便だった。

	<ul style="list-style-type: none"> • 好きやっちゃ。富山は空気がきれいだし、慣れました。交通が不便だけど、生活しやすい。他の国からの留学生、日本人学生とも仲良くなれた。 • 富山の環境は静かなのが好きで、悪い点は北陸にあるから雪が多い点だ。留学生や日本人学生と仲良くなれたし、先生もやさしい。 • 富山の悪い点は、車がないから、冬は雪で家にしかいらなくて退屈だった。いい点は、本州の真ん中にあるから、京都・大阪へも東京へも行きやすかったこと。立山があるから、自然災害が少ないことだ。みんなやさしく、ゼミでも愛されて勉強している感じがした。ゼミで誕生日会を開いてもらったときはとてもうれしかったし送別会もしてもらえるし、こんなふうに留学生のための日本語のコースをよくするためにインタビューも行われているし、富山に来て本当に良かった。 • 全然良かった。空気と水が良かった。人々がのんびりしていて、住みやすい。魚もおいしい。この間東京で寿司を食べたら、全然おいしくなかった。海と山も近い。 • 交通機関が不便で、国とは全然違うからびっくりした。ただ、欠点はこれぐらいで、他は私にとって安全だし、落ち着いてのんびり生活できるから良かった。治安がすごくいい。留學生活では、長い間一人で生活したので、自立することができた。もちろん周りの人にたくさん手伝ってもらったが、自分でやらなければいけないことも多く、いいバランスが取れたと思う。 • 安全で安心な生活ができた。日本のほかの地域と比べると、地震がないから安心できた。 • とても良かったと思う。富山が大好きだ。子どものころから山が好きで山の近くに住みたかったので、夢が叶った。立山は本当にすばらしい。立山を見ると、感激する。町が立山に囲まれていてすてきだ。大学の生活もとても良かった。友だちも本当にたくさんできた。先生も全員やさしかった。富山は本当に勉強と生活するのにいい環境だと思う。 • 富山のいいところは、静かで景色がきれいな田舎で、水もお米もおいしい。悪い点は天気で、冬は雨が降った後は雪、雪が降った後は雨で、寮から学校まで遠いし、バスも1時間に2本だけで少ないし、とても不便だった。ゼミの日本人学生たちと交流する機会が多く、皆、修了レポートを書くときなどいろいろと手伝ってくれて、感謝している。 • この1年とても楽しかった。いろいろ遊びに行った。景色がきれいだし、人々もやさしいし、富山のことが好きだ。ただ、大都市と比べて交通が不便だ。 • 悪い点は、冬いつも雪が降っていて、交通が不便だった。いい点は、景色がきれいなこと、たとえば、立山、黒部、雪の壁などの有名な景色がある。生活がゆっくりできて、ストレスが少ないと思う。温泉が好きなので、この点でも富山は良かった。 • いい点は静かで暮らしやすいことだが、交通が不便だった。大学生活はゼミがあって、秋期は勉強だけだった。春期に修了レポートを書き終えた後、いろんな所へ行きたかったが、もうあまり時間がない。楽しい留學生活を送った学生が少いうらやましい。 • 自由だった。ゼミはないけれど、チューターと食の交流会をしたり金沢へ行ったり旅行に行ったりして、楽しかった。 • 富山の自然風景はとてもきれいだ。富山の友だちはいつも富山には何もないと言うけれど、自分はこの点が好きだ。日本にいる間に東京や大阪などいろいろ旅行したが、大都市と比べると富山のほうが静かで暮らしやすいと思う。ただ、交通はちょっと不便だ。少し遠いところに行くためには、車を持っている友だちに頼まなければならない。大学生活では、ゼミの人たちと家族のように仲良くした。
--	---

まず、コースの開講科目数については十分だったという意見が多かったが、留學期間が半年の学生たちからは「他の科目も受講すればよかった」という意見も聞かれた。留學期間が短い学生に対しては学期初めの時間割作成の段階において、より手厚い指導の必要性がうかがわれる。

次に、コースのレベルについては科目によって難易度が異なることを挙げる学生が多かった。特に非漢字圏の学生にとっては「読解」、「文法」、「作文」、「漢字」、「表現技術」が難しかったようである。2014年度は総合日本語コースの受講者数が増え、また、受講者の日本語の習熟度の開きも多かったことから、例年と比べて「難しかった」という声が多く聞かれたものと思われる。

科目選択の際に重視した点として、自分自身が苦手な点について力をつけようとして選んだという回答と日本語能力試験受験を考慮して選んだという回答が多く、他には、おもしろそうな科目、就職時に役立ちそうな科目、母国の大学での単位認定がしやすいような科目を選んだという回答があった。

自身の日本語能力については話す、聞く力を中心に、レベルアップしたと感じている学生が多かった。読むスピードの速さや漢字・語彙力の向上を挙げる学生も複数見られた。今後伸ばしたい力としては、さらに話す力、コミュニケーション力を身につけたいという学生が多く、漢字力やレポートを書く力をつけたいという学生も複数見られた。

最後に、富山の生活については日本人学生との交流や自然環境を評価する学生が多かった。問題点としては、交通の不便さと天候を挙げる学生が多かった。

8 おわりに

総合日本語コースは、当初は日本語・日本文化研修留学生を対象として開設したプログラムであるが、年々短期留学生の受講が増加している。そこで2014年度より、コース要項を整備して、これまで日本語・日本文化研修留学生に対してのみ行っていた国際交流センター長名での履修証明書の発行を、短期留学生に対しても行う体制とした。2014年度の課題としては、総合日本語コースへの中級レベルの科目の設置が挙げられる。2014年度の日本語・日本文化研修留学生の中には、来日時の日本語力があまり高くなく、総合日本語コースの一部の科目については難易度が高すぎるため、日本語課外補講中級クラスの科目を受講しなければならない学生たちがいた。今後もこのような学生の増加が見込まれること、中級レベルの科目の設置は短期留学生にとっても受講科目の選択が広がるという利点があることから、2015年度秋期からの実施を目指して検討を進めた。今後もその時々受講者に合ったコースを提供できるよう、コースの改善に努めたい。